第１学年　国語科学習指導案

１ 組　計２１人（男子９人　女子１２人）

指導者　　豊　重　　真　奈　美

１　単　元　「こえにだしてよもう」（教材「くじらぐも」光村１年下）

２　目　標

○　物語に興味をもち，場面の様子を想像しながら，楽しく読み進めようとしている。
【国語への関心・意欲・態度】

○　書いた手紙を読み合って、よいところを見つけて感想を伝え合うことができる。【書く能力】

○　登場人物の様子や気持ち，場面の様子を声の大きさや読む速さで表現することができる。

○　会話文や繰り返しの文に着目しながら，登場人物の様子や気持ち，場面の様子など，挿絵も手掛かりに，想像を広げながら読むことができる。【読む能力】

○　かぎ（「　」）の使い方を理解し，正しく用いることができる。
【言語についての知識・理解・技能】

３　単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは，これまでの学習で，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んだり，言葉のまとまりやリズム，声の強弱に注意しながら楽しく読んだりしてきた。

そこで本単元では，お話に出てくる「子どもたちとくじらぐも」との動作や会話文に目を向けながら，それぞれの登場人物の気持ちや場面の様子を想像し，声に出して楽しく読むことをねらいとした単元を設定した。

教材「くじらぐも」は，体育の時間に校庭で体操をしていた１年生と空に現われたくじらぐもとの交流を描いたファンタジー作品である。この教材は，現実と空想が入り交じっており，読んでいるうちに子どもたちが登場人物と同化し，楽しんで読み進めていける物語である。そして，想像を楽しんでは声に出して読み，声に出して読んではまた想像を深めるという活動を繰り返しながら，内容理解が深まっていく教材であると考える。

本単元で，子どもたちは，自分の見つけた雲から自由に発想させ，それを絵や吹き出しに書くことで，表現の楽しさを味わうことができる。そして，「子どもたちとくじらぐも」の動作や会話文に目を向けながら，それぞれの登場人物の気持ちに寄り添って音読させることで，場面の様子を豊かに想像することができる。また，子どもたちとくじらぐもの位置関係に気付いたり，動作化を取り入れ登場人物になりきって考えたりすることで，声の大きさや読む速さなどを意識して読むことができる。その上，リズミカルな会話文や繰り返しの表現に着目し音読することで，声に出す楽しさや声を合わす気持ちよさを感じ取ることもできる。

ここでの学習は，読みの力を生かして，登場人物の心情を受け止めたり，読んで好きなところを見つけ読書の楽しさを深めたりする１２月教材「ずうっと，ずっと大すきだよ」の学習へとつながっていく。

(2) 子どもの実態

ア　教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは，国語科の学習に楽しんで取り組んでいる。発表意欲もあり，進んで発表する子が多い。しかし，自分の発表だけに満足している姿が見られるので，教師が意図的に取り上げながら,友達の発表を意識して聞くことができるように指導しているところである。平仮名の読み書きは，ほとんどの子どもが定着している。また，声に出して読むことを楽しんでいる子どもが多く，音読は，家庭と連携をとり，単元ごとに読みの目標を入れた音読カードを活用することで，意欲的に取り組んでいる。想像したことを書いたり，自分の考えを書き表

したりする活動は，吹き出しに短い言葉で書き表すことができるようになってきている。

イ　本単元の内容に関わる実態（調査日　平成２３年９月１２日　調査人数２１人）

①	声に出して本を読むことは好きですか。	好き	１４人	嫌い　７人
②	お話に合わせて，劇をすることは好きですか。	好き	１６人	嫌い　５人
③	手紙を書いたことはありますか。	ある	１８人	ない　３人

本学級の子どもたちは，これまでの読む学習で，自分の読みに工夫を加え，音読発表会を行ったり，話に合わせて動作化したりして，学習したことを誰かに伝える活動を楽めるようになってきている。また，物語の内容を楽しみ，登場人物の気持ちを考える活動も経験してきているが，叙述から離れて，自分の想像で語る子どももいる。そこで，ここでは叙述に即しながら，想像を膨らませて読むことができるようにしていきたい。

手紙を書くことは，ほとんどの子どもたちが経験してきている。その相手としては，家族や友達である。読書月間中の読書郵便を通して，友達との手紙のやりとりの楽しさを感じることができるようになっている。今後は，話題を選んで手紙を書けるような力をつけさせていきたい。

日常の生活の中で，多くの子どもが空を見上げ，雲を見ているようである。１学期教材「こんないしをみつけたよ」で，石の形や色，手触りなどの特徴をとらえ，名前をつける学習を行っている。そのため，雲の形も身近な動物や食べものに当てはめて，楽しく空想に浸ることができると考える。

４　指導に当たって（研究との関連）

本単元の指導に当たっては，以下のような点に留意して指導していく。

○「つかむ」過程では，実際に外へ出て，空を見ながら雲の形や動きを観察し，いろいろな形の雲があることに気付くようにする。いくつかみんなで同じ雲を見て，何の形に見えるか考えを出させることで，雲への興味をもたせ，「くじらぐも」のイメージを膨らませるようにする。また，導入時や各場面でくじらぐもからの手紙を提示することで，自分たちも雲に返事を書いてみたいという意欲を高めることができるようにする。そして，単元のまとめとして，くじらぐもに手紙を書くことを知らせ，継続した目的をもって楽しく読み進められるようにする。

○「深める」過程では，登場人物に同化できるように，場面に合わせた舞台を作成し，動作化と読み取りを連動させながら，それぞれの場面の様子について想像を広げながら読むことができるようにする。また，音読の際には，子どもたちとくじらぐもの位置関係を押さえることで，くじらぐもの声がどのくらいの大きさや速さに聞こえるのか考え，音読に生かすことができるようにする。さらに，子どもたちが雲に飛びのる場面では，繰り返しの会話に気付かせ，子どもたちの気持ちがどのように高まっていくのか考えさせることで，声の大きさや速さを工夫した音読ができるようにする。

○「味わう・高める」過程では，自分の好きな場面を選び，読み取ったことを生かして，工夫した音読ができるようにする。その際，音読練習の場を，授業の他，朝の読書の時間や家庭学習にも取り入れていく。音読を家庭でも聞いてもらうことで，音読発表に向けての気持ちを高め，個人で十分に練習時間を取り，自信をもって発表に臨むことができるようにする。また，同じ場面を選んだ友達同士での練習を進めたり，友達の読みのよさによく気付く子どもを入れた意図的グルーピングを行い，子ども同士で読みの変化を認め合えるようにする。

○「まとめる・広げる」過程では，「深める」過程の各場面でくじらぐもからきた手紙を振り返り，くじらぐもへの手紙に書く内容の視点を示すことにより，抵抗なく手紙を書くことができるようにする。そして，書いた手紙をグループで読み合い，感想を付箋紙に書いて伝えることで，友達の読みのよさや自分との違いに気付くことができるようにする。また，雲にまつわる他のファンタジー作品や，雲に関する本，本作者中川李枝子さんの他の作品など紹介し，豊かな読書生活につなげるようにする。

5　指導計画（全１０時間）

［　　］は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	2	1　外に出て，雲の様子や動きについて話し合う。 2　題名から話の内容を想像した後，教材文「くじらぐも」を読み，印象に残った場面について話し合う。 3　新出漢字や片仮名の練習をする。 4　感想を基に，学習のめあてや学習計画を立て，見通しをもつ。 『くじらぐもにてがみをかこう。』	○「何に似ている雲か」という投げかけをして，雲の形から空想を広げさせ，発表できるようにする。 ○　挿絵や印象に残った場面を基に，初発の感想をもち，学習計画を立てることができるようにする。 ○　くじらぐもからの手紙を紹介することで，自分たちも手紙を書きたいという意欲をもたせることができるようにする。そして，単元の最後でくじらぐもに手紙を書くことを知らせ，本単元の目的意識をもちながら読み進めることができるようにする。 ［物語に興味をもち，場面の様子を想像しながら，楽しく読み進めようとしているか。【関心・意欲・態度】］
深める	5 （本時3／5）	5　物語のおもしろさを味わいながら，教材文「くじらぐも」を読む。 ○　子どもたちと一緒に体操するくものくじら ○　呼びかけあう子どもたちとくものくじら ○　くものくじらに飛び乗る子どもたち（本時） ○　くものくじらと子どもたちの旅 ○　くじらぐもと子どもたちとの別れ	○　子どもたちとくものくじらの位置関係を押さえたり役割読みをさせたりすることで，声の大きさや速さなどに気付かせて読むことができるようにする。 ［会話文や繰り返しの文に着目しながら，登場人物の様子や気持ち，場面の様子など，挿絵も手がかりに，想像を広げながら読むことができたか。（発表・動作）【読む能力】］ ○　主述の関係や助詞の「も」「が」の使い方に着目し，音読や動作化をすることで，場面の様子や登場人物の気持ちを想像することができるようにする。 ［登場人物の様子や気持ち，場面の様子を声の大きさや読む速さで表現することができたか。（音読）【読む能力】］ ［かぎ（「　」）の使い方を理解し，正しく用いることができたか。【言語についての知識・理解・技能】］ ○　吹き出しに書いたことを交流することで，自分の考えに自信をもち発表できるようにする。さらに，友達の考えのよさや自分との違いを感じさせ，読みを深めていくことができるようにする。
高めあう	1	6　好きな場面を選び，読みとったことを生かして，工夫した音読をする。 7　学習したことや想像したことが伝わるように，音読発表をする。	○　場面の様子や登場人物の気持ちが伝わるような音読の仕方ができるように，一人一人の読みの変化を認め，称賛する。また，互いの発表を聞くことで，友達の読みの工夫や表現のよさに気付き，そのよさを発表できるようにする。 ○　楽しかったことやお礼など，複数の視点を与え，くじらぐもに手紙を書くことができるようにする。なかなか書けない子には，場面ごとに提示したくじらぐもの手紙に返事を書くようにさせたい。
広げまとめる	2	8　話を振り返り，「くじらぐも」に手紙を書く。	［書いた手紙を読み合って，よいところを見つけて感想を伝え合うことができたか。（手紙）【書く能力】］

６　本　時（５／１０）

(1)　目　標　はりきってくものくじらに飛び乗ろうとする子どもたちの気持ちの高まりを読み取ることができる。

(2)　展　開

（　　）は教師の言葉かけ　（　　）は予想される子どもの反応　◆　は重点評価項目と個に応じた指導　☆はＩＣＴ活用の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つかむ(5)	**１　前時までの学習を想起する。** くものくじらは，何と言って子どもたちを空に誘いましたか。 「ここへおいでよう。」と言いました。 誘われた子どもたちは，何と言いましたか。 「よしきた。くものくじらにとびのろう。」 **２　本時の学習課題を確認する。** くものくじらにとびのろうとする子どもたちは，どのようなきもちだろうか。	○　くものくじらに飛び乗ろうとはりきっている子どもたちの様子について確認することで，本時の読みにつなげていけるようにする。その際，子どもたちとくものくじらの位置関係も確認し，お互いに呼びかけ合う様子を想起できるようにする。 ☆　くじらぐもからの手紙を基に，本時の学習課題へ結びつけていけるようにする。その際，電子黒板にくじらぐもからの手紙を映し，確認することで，意欲をもって課題解決に取り組むことができるようにする。
深める(18)	**３　全員で学習範囲を声に出して読む。** **４　子どもたちがくものくじらに飛び乗るまでの様子を読み取る。** 子どもたちは，くものくじらに飛び乗るためにどんなことをしましたか。 手をつないで，まるいわになりました。ジャンプして，かけ声もかけました。「天までとどけ，一，二，三。」と言いました。 「天までとどけ，一，二，三。」と３回繰り返されていますが，子どもたちはどんな気持ちでかけ声をかけたのでしょう。 どんどんはりきっていったと思います。今度こそ乗るぞと思ったと思います。	○　会話文に着目させ，みんなが力を合わせてくじらぐもに飛び乗ろうとしている様子や気持ちを読み取ることができるようにする。 ○「天までとどけ，一，二，三。」の繰り返しに気付かせ，回を重ねるごとにくものくじらに飛び乗りたいという子どもたちの気持ちの高まりを想像することができるようにする。また，くものくじらが子どもたちを応援する気持ちの高まりも想像し，工夫した読みができるようにする。 回を重ねるごとに，とぶ高さ，声の大きさで子どもたちの気持ちの高まりを表すことができたか。　（動作化・音読）【読む能力】 ◆　子どもたちの気持ちの高まりを読み取れていない子ども →　教師やグループの子どもたちと動作化することで，気持ちの高まりを読み取ることができるようにする。
高めわかる(15)	**５　動作化と子どもたちの会話の読み方を工夫しながら，グループで読む練習をする。** くものくじらに飛び乗ろうとする子どもたちの気持ちがわかるように，どんな読み方をすればいいかな。 子どもたちの会話のところを，だんだん声を大きくすればいいと思います。	**○「深める」過程での音読とまとめる過程での音読の違いを比べ，工夫したことのよさに気付くことができるようにする。（比較する）** ☆　電子黒板でくものくじらに乗った画面を見ることで，くものくじらに飛び乗った時の喜びを表現することができるようにする。
まとめる(7) 広げる	**６　本時の学習を振り返り，学習のまとめをする。** がんばってジャンプしてくじらぐもにどうしてものるぞ。 みんなできもちをあわせて，がんばろう。 くじらぐもにのりたいというきもちがつよくなってきた。 **７　次時の学習を確認する。** 次は，くじらぐもに乗った子どもたちの気持ちを話し合いましょう。	○　本時の学習を振り返らせ，動作化を取り入れることで，くものくじらに飛び乗る子どもたちの気持ちが分かるような音読ができるようにする。